

講師略歴

講師：山中 佑介 先生（名古屋市熱田区 山中歯科医院 院長）

2011年朝日大学歯学部卒業・岡崎シバタ歯科にて研修

2012年名古屋大学歯科口腔外科に就職

2013年BPSドクターコース・テクニシャンコース受講

2015年名古屋PGI顎関節コース受講

2015年山中歯科医院にて院長就任

2016年銀座深水総義歯コース受講

2017年CEセミナー総義歯コース受講

2018年スイスゲルバーメソッドコース受講

2019年阿部二郎吸着デンチャーinカナダ・スペイン・ネパールに同行

2019年PGI名古屋総義歯の基礎コース講師就任

参加学会

有床義歯学会・日本補綴歯科学会・日本顎咬合学会・臨床歯周病学会

講演抄録

演題：「総義歯臨床治療～临床上必ず起こり得るエラーをどのように補うのか～」

総義歯は歯科医師・歯科技工士の綿密な協力の元に製作される補綴装置である。しかし、歯科医師、歯科技工士がどんなに高度な技術や精度を持っていても、多くの症例では義歯完成後に早期接触が生じ、床縁や床内面には不適合部位を認めるため、調整を余儀なくされる。

現状では総義歯を製作する上で材料の変形は避けられず、生体と咬合器の運動を完全に一致させることは不可能であるため、総義歯を製作する上で調整箇所が出現してしまうことは避けようのない事象である。

そしてその誤差が積み重なることで製作される不適合な義歯が患者満足度を満たす装置になることは難しい。

しかしながら臨床ステップごとで生じる生体との誤差をどのように埋めていくのかを把握することにより、結果的に多少の調整が必要になったとしても、患者満足度の高い総義歯を製作することは可能であると筆者は感じている。

本講演では総義歯製作におけるステップごとにおける注意事項とともに機能印象やリマウントテクニックなどの応用方法などを筆者の症例を提示しながら私見を述べたい。